

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：34503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370256

研究課題名(和文)近世中後期の光格天皇を中心とする堂上歌壇の実態と文芸ネットワークの研究

研究課題名(英文)A Study on the Imperial Waka Poetry Circle and Literary Networks Centered around Emperor Kōkaku in Mid to Late Edo-Period Japan

研究代表者

盛田 帝子(飯倉帝子)(MORITA, Teiko)

大手前大学・総合文化学部・准教授

研究者番号：40531702

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：近世中後期の光格天皇時代の歌壇の解明に向けて研究成果を挙げた。光格天皇が添削・批言・勅点を施した宸筆資料の調査・収集・分析を行い論文として成果を報告した。また光格天皇主催の宮廷歌会資料を調査・収集し、天明期から文化・文政期までの宮廷御会年表、光格歌壇の主要メンバーの推移一覧表を作成し、一部論文として報告した。光格天皇から朝儀再興をめぐって照会を受けた賀茂季鷹の家集出版について考察し、論文として報告した。近世後期朝廷研究や和歌を媒介とする朝廷・門跡・公家・地下官人ネットワークの解明をめざす公開研究会を2回開催した。その成果を元に、平成29年度中に論集を刊行の予定である。

研究成果の概要(英文)：The research project focused on waka poetry circles during the reign of Emperor Kokaku in the mid to late Edo period, and produced the following results. (1) Surveyed, collected, and analyzed materials containing Emperor Kokaku's handwritten corrections, comments, and marks of approval on waka poems by other poets, and published a paper on the findings. Also surveyed and collected materials on imperial waka poetry meetings hosted by Emperor Kokaku, and created a timeline showing the changes in the membership of Emperor Kokaku's waka poetry circle; published a portion of the findings in a paper. (2) Examined the publishing of a collection of waka poetry by Kamo no Suetaka, and published a paper on the findings. (3) Organized two public symposia on the imperial court in the late Edo period and networks consisting of the Emperor, Buddhist monks of imperial or aristocratic lineage, aristocrats, and lower-status houses in service of the imperial court.

研究分野：日本近世文学

キーワード：光格天皇 歌壇 人的ネットワーク 近世和歌 賀茂季鷹 靈鑑寺 妙法院宮 添削

## 1. 研究開始当初の背景

近世和歌研究は、戦前から小沢蘆庵、香川景樹などの地下歌人の伝記・歌論を中心に行われてきた。しかし近年堂上和歌・歌壇研究は著しい進展をみせ、天皇を中心とする堂上和歌・歌壇こそが近世和歌界の中心的な存在であることが明確になった。だが堂上歌壇研究も近世前期の後陽成・後水尾・霊元天皇の時代に偏り、中後期は等閑視されてきた。それはこの時期は近世前期を継承するのみで何の展開もなく、重要な歌壇の形成も認められなかったとみなされてきていたためであろう。代表者は、近世中後期の堂上歌壇の中心に存在する光格天皇(1771-1840)と、その時代に堂上歌人に影響を与えた地下古学派歌人の一人である上賀茂神社神官の賀茂季鷹(1754-1841)に焦点をあて、従来ほとんど研究されていない江戸時代中後期の堂上歌壇の実態を解明すべく、調査を重ね、論考を発表してきた。その主要な成果は17本の論文と3本の資料翻刻を収めた『近世雅文壇の研究 光格天皇と賀茂季鷹を中心に』(汲古書院、2013年10月)として刊行した。本書において代表者は、桜町天皇の時代に、天皇家の歌道入門制度もまた成立したこと。

光格天皇は、堂上歌壇を統べる存在として、頻りに歌会を開催し、強固な光格天皇歌壇を形成し、実兄の妙法院宮真仁法親王や姻戚関係にある堂上古学派歌人の富小路貞直の影響を背景に、地下古学にも関心を示したこと。

寛政～享和期(1789-1804)は、享和二年の「大愚歌合」事件(地下歌人の大愚が判をし堂上地下歌人が一堂に会して歌合を行ったため、参加した日野資矩ら堂上歌人が処罰された事件)に象徴されるように、地下古学派の勢力が増進し、堂上歌人の一部に影響を与え、京都歌壇の転換期であったということを明らかにした。近世中後期は、光格天皇を中心とする強固な堂上歌壇が形成され、それが和歌界に大きな展開を引き起こした創造的な時代であった。しかし、それだけではまだ近世中後期堂上歌壇の全体像を明らかにしたことにはならない。引き続き光格歌壇の実態を明らかにするために諸機関の資料調査を行い、新しい文書を掘り起こし、添削資料などを通して光格天皇とその周辺の人的交流の様相を浮かびがらせるとともに、近世中後期における天皇歌壇の意義、光格の和歌・歌論の文学史意義を検討しようとする。

## 2. 研究の目的

本研究は、近世中後期における光格天皇(のちに院)時代の歌壇の状況を、光格の和歌添削資料を中心に調査・分析して、光格歌壇の形成・展開の実態を解明するとともに、その文学史的意義を明らかにすることを主たる目的とする。諸資料を用いて、近世後期における天皇歌壇の意義、光格天皇の和歌観、和歌添削を通じた人的交流を検証し、近世後

期朝廷研究や、和歌を媒介とする朝廷・門跡・公家・地下官人ネットワークの解明に資することを旨とする。

具体的には、次の3点を柱とする。

### (1)光格天皇和歌関係年表の作成

本研究で収集する新資料、および、申請者が過去の研究活動によって収集した光格天皇和歌関係資料(とくに御会・添削資料)の書誌情報を蓄積し、データベースを構築し、光格和歌関係年表を作成する。なお、重要な天皇資料は原則として翻刻し、本文データとして蓄積するが、主要な新史料については、重点的に検討の対象とし、考察する。

### (2)光格天皇の和歌観の研究

光格天皇歌壇の最盛期の実態に迫り、同時に光格天皇の和歌観を明確にする。加えて、収集資料を宮廷和歌資料と対照して分析を加えることから、宮中における和歌修練(教育)の機能をも明らかにする。

### (3)光格天皇を中心とする文芸ネットワークの研究

収集資料をもとに、光格天皇の和歌添削の被添削者、光格天皇主催の歌会への参加者、光格天皇と和歌・歌学などについて書簡のやりとりや著述の献呈などを行った人物について調査し光格天皇を中心とする文芸ネットワークの実態を解明する。

## 3. 研究の方法

(1) 代表者は宮内庁書陵部・国立歴史民族博物館・国文学研究資料館・陽明文庫における資料調査を実施する。これとは別に研究分担者の協力を得て、尼門跡寺院関係の調査を行う。

(2) 申請者がこれまで収集を終えた資料と、(1)で収集した資料を合わせた「光格天皇和歌関係資料」のうち、主要な資料について翻刻を行う。

(3) 毎年度、日本近世文学・日本近世史研究者を招聘する研究会を開催し、申請者が(2)で整理した資料について報告し、連携研究者・ゲストの2名程度が本研究のテーマに関する研究発表または講演を行う。またこの場で研究上の意見交換・情報交換をする。

## 4. 研究成果

近世中後期における光格天皇時代の歌壇の状況を、光格天皇の和歌添削資料を中心に調査・分析し、近世後期朝廷研究や和歌を媒介とする朝廷・門跡・公家・地下官人ネットワークの解明を目指すために、研究・調査を実施し、それを元に口頭発表・論文公表を行った。年度別に述べる。

平成26年度の研究成果については下記の通りである。

資料調査・収集に関しては、5月30日に宮内庁書陵部において、光格天皇関係資料の調査および収集を行った。9月15日に京都霊鑑寺において光格天皇関係資料の調査および収集を行った。11月14日、慶應大学斯道文

庫において光格天皇歌壇の地下歌人賀茂季鷹関係資料の調査を行った。

2014年5月に、国文学研究資料館調査収集シンポジウムに招かれ、「二条派から古学派へ 堂上歌学の変容と地方への伝播」と題して発表し、その内容を『調査研究報告』第35号に掲載した。

またドイツ国ハイデルベルク大学からの招待講演で、近世天皇の和歌を取り上げ、その人物像や和歌の具体的解釈・意味づけ・和歌の韻律について発表した。

2015年2月28日(土)午後、大手前大学さくら夙川キャンパスA棟2階A24a教室にて、科研研究課題に関わる公開研究会を行い、約30名の参加者があった。まず京都女子大学教授の大谷俊太氏が「後水尾院の和歌と歌学」という講演を行い、ついで日本学術振興会特別研究員の山本嘉孝氏が「近世中期儒学における和歌受容 中村蘭林『寓意録』を中心に」を、豊田高専准教授の加藤弓枝氏が「板本『六帖詠草』考 小沢蘆庵と門弟たちのねらい」を、代表者が「賀茂季鷹と転換期京都歌壇 妙法院宮真仁法親王との関わりを通して」を、京都学園大学准教授の鍛冶宏介氏が「江戸時代後期、手習教育における和歌学び」を発表、大阪大学教授飯倉洋一氏の総合司会の下、活発な質疑討論が行われた。その後の打ち合わせにおいて、光格天皇歌壇を中心に、近世天皇歌壇をめぐる諸問題をテーマとする論集を刊行する方向で検討することになった。

なお、堂上歌壇との関わりが深く、光格天皇の朝議再興についての勅問に回答した賀茂季鷹の『雲錦翁家集』について、初印本である台湾大学図書館所蔵本の影印翻刻を刊行した。

連携研究者の岸本香織氏は霊鑑寺文書調査書のデータ入力を行った。

平成27年度の研究成果は以下の通りである。

資料の調査収集に関しては、陽明文庫(京都市)・京都市歴史資料館・京丹後市久美浜庁舎、東京都の宮内庁書陵部・国立国会図書館等で関連資料の調査を行った。その結果、光格天皇歌壇の運営の具体的状況や人的ネットワーク、堂上歌壇と地下歌壇の関わりについての新しい資料を発見、収集することができた。

研究会に関しては、2016年2月28日、大手前大学において第2回公開研究会を行った。慶応義塾大学斯道文庫准教授 一戸渉氏の「賀茂社家岡本家文書における入木道関係資料」(ディスカッサント 盛田帝子)、明星大学准教授 青山英正氏の「孝明天皇の和歌と志士」(ディスカッサント 大阪大学准教授 合山林太郎氏)、国立高専機構 豊田高専 准教授 加藤弓枝氏の「正保版二十一代集と堂上歌壇 出版背景を中心に」(ディスカッサント 大阪大学特任講師 勢田道生氏)、国

文学研究資料館名誉教授 鈴木淳氏の「妙法院宮真仁法親王と六帖詠草の構想」(ディスカッサント 国文学研究資料館教授 神作研一氏)の発表が行われ、大阪大学教授 飯倉洋一氏の総合司会で活発な質疑応答が行われた。当日は上田秋成自画賛、富小路貞直短冊、小澤蘆庵点真仁法親王詠草等の光格天皇歌壇関係資料の展示も行われた。平成26年度に行われた第1回研究会と本研究会の成果を合わせた論集を刊行する見通しを明確にし、その準備を進めた。

研究分担者の岸本香織氏は、霊鑑寺文書調査書のデータ入力を行った。

平成28年度の研究成果については以下の通りである。

資料調査に関しては、陽明文庫・国立国会図書館・宮城県伊具郡丸森町・カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館・カリフォルニア大学ロサンゼルス校図書館で関連資料の閲覧・調査を行った。その結果、近衛基前の詠草に光格天皇が添削・批言・勅点を加えた宸筆資料、光格天皇が勅点を加えた高松公祐詠草を確認・調査・収集することができた。また天明期から文化・文政期までに光格天皇が主催して行った宮廷歌会の御会年表を作成した。

カリフォルニア大学バークレー校所蔵『公祐詠草』の調査結果は、『上方文藝研究』14号(2017年6月)に投稿した。天明期に光格天皇が主催した宮廷歌会の収集資料については、天明期の御会資料について、実施年月日、年齢、御会名、場所、歌題、光格天皇詠出和歌、題者、奉行、その他の諸役などのデータを『大手前大学論集』第17号(2017年3月)に発表した。

光格天皇歌壇に関しては、ドイツ国ハイデルベルク大学から招待を受け、同大学で行われた「前近代日本文学研究会シンポジウム 境界・中間・越境」において、「日本文学における越境 光格天皇時代の歌人達」と題して発表した。

また光格天皇から儀式の再興をめぐって問い合わせを受けた地下歌人賀茂季鷹の家集が出版されることに関して、堂上歌壇との関わりに注目しながら考察した「家集を出版すること 賀茂季鷹『雲錦翁家集』を巡って」を日本近世文学会秋季大会で発表、論文化したものが『近世文藝』106号(2017年7月)に掲載される。

また光格天皇歌壇との関わりでは、宮城県伊具郡丸森町にて、招待講演「光格天皇時代の京都歌壇と宗畔院良廣律師 芝山持豊・賀茂季鷹との交流を通して」を行った。

なお、関連業績として、『小澤蘆庵自筆六帖詠草本文と研究』(共編)がある。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

盛田帝子「家集を出版すること 賀茂季鷹『雲錦翁家集』を巡って」(『近世文藝』第106号、PP29-41、2017年7月刊行予定、査読有)

盛田帝子「近世の晴の歌」(『心の花』、2017年6月号、PP34-35、査読無)

盛田帝子「カリフォルニア大学バークレー校所蔵 光格天皇勅点高松公祐詠草」(『上方文藝研究』第14号、PP169-187、2017年6月刊行予定、査読有)

盛田帝子「光格天皇主催御会和歌年表 天明期」(『大手前大学論集』第17号、PP169-187、2017年3月、査読無)

岸本香織「天明大火後の復興に関する一考察 光照院と総持院の対比」(『近世・近代の尼門跡を中心とした女性ネットワークの研究』1、PP25-30、2016年、査読無)

盛田帝子「二条派から古学派へ 堂上歌学の変容と地方への伝播」(『調査研究報告』第35号、PP21-26、2015年3月、査読無)

〔学会発表〕(計7件)

盛田帝子「光格天皇時代の京都歌壇と宗俣院良廣律師 芝山持豊・賀茂季鷹との交流を通して」(招待講演、宮城県伊具郡丸森町館教育委員会、矢間まちづくりセンター、宮城県伊具郡丸森町、2017年3月)

盛田帝子「公家歌人の宣長評価」(招待講演、平成28年度宣長十講、本居宣長記念館三重県松阪市、2017年3月)

盛田帝子「家集を出版すること 賀茂季鷹『雲錦翁家集』を巡って」(日本近世文学会、信州大学、長野県松本市、2016年11月)

盛田帝子「日本文学における越境 光格天皇時代の歌人達」(招待講演、前近代日本文学研究会シンポジウム、ハイデルベルク大学、ドイツ連邦共和国ハイデルベルク市、2016年6月)

盛田帝子「近世和歌翻訳の試み」(招待講演、シンポジウム日本の歴史的典籍とそのデジタル化 研究及び教育に与える影響、ハイデルベルク大学、ドイツ連邦共和国ハイデルベルク市、2015年11月)

盛田帝子「異色の歌人富小路貞直 近世京都歌壇の変革者」(招待講演、大阪府立大学府民教養講座「うたのちから」1-site なんば、大阪府大阪市、2014年6月)

盛田帝子「二条派から古学派へ 堂上歌学の変容と地方への伝播」(招待講演、国文学研究資料館調査収集シンポジウム、国文学研究資料館、東京都立川市、2014年5月)

〔図書〕(計2件)

飯倉洋一・大谷俊太・加藤弓枝・神作研一・盛田帝子・山本和明編『小澤蘆庵自筆 六帖詠草 本文と研究』(和泉書院、778頁、2017年2月)

盛田帝子『台湾大学典籍全文刊本 5 国立

台湾大学図書館典藏 賀茂季鷹『雲錦翁家集』(国立台湾大学図書館、456頁、2014年6月)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

盛田 帝子 (MORITA, Teiko)  
大手前大学・総合文化学部・准教授  
研究者番号：40531702

(2) 研究分担者

岸本 香織 (KISHIMOTO Kaori)  
大手前大学・史学研究所・客員研究員  
研究者番号：40440903

(3) 連携研究者

飯倉 洋一 (IIKURA Yoichi)  
大阪大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：40176037

岡 佳子 (OKA Yoshiko)

大手前大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：50278769

杉田 善雄 (SOMADA Yoshio)

大手前大学・総合文化学部・教授  
研究者番号：20368442

(4) 研究協力者

なし